

# 銀行

## 1. 評価対象企業（13社）

### 【主要銀行】（6社）

あおぞら銀行、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、みずほフィナンシャルグループ

### 【地方銀行】（5社）

しずおかフィナンシャルグループ、めぶきフィナンシャルグループ、コンコルディア・フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ

### 【専門銀行】（2社）

ゆうちょ銀行、セブン銀行

（証券コード協議会銘柄コード順）

## 2. 評価方法等

### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	7
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	8	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	13
計		22	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

### (2) 評価実施アナリストは 20 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

## 3. 評価結果

### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価項目分野のうち **ESG 関連**を中心に項目数、内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 77.8 点（昨年度 75.0 点）、総合評価点の標準偏差は、4.8 点（昨年度 6.2 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%（昨年度同率）、**説明会等**が 81%（昨年度 79%）、**フェア・ディスクロージャー**が 85%（昨年度同率）、**ESG 関連**が 76%（昨年度 70%）、**自主的情報開示**が 72%（昨年度 68%）となった。
- ③ 評価項目（全 22 項目）について見ると、11 項目が平均得点率で 80%以上となり、その中でも次の 3 項目（説

明会等の中の2項目((a)(b))およびフェア・ディスクロージャーの中の1項目(c)は85%以上と高水準であった。

- (a)「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示(規制変更の影響など自主的開示を含む)が十分に なされていますか」(平均得点率86%〔昨年度82%〕)(得点率(評価点/配点<以下省略>):70%台1社・80%台7社・90%台5社)
  - (b)「第1四半期、第3四半期の開示内容は充実していますか」(平均得点率86%〔昨年度84%〕)(得点率:70%台2社・80%台7社・90%台4社)
  - (c)「経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率87%〔昨年度89%〕)(得点率:80%台7社・90%台6社)
- ④ ESG関連の8項目は、次のとおりとなった((e)(f)(h)は、本年度の新設項目)。なお、(g)の平均得点率が全22項目の中で最も低かった。
- (a)「資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率77%〔昨年度74%〕)(得点率:60%台2社・70%台7社・80%台4社)
  - (b)「中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率76%〔昨年度72%〕)(得点率:70%台8社・80%台5社)
  - (c)「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率82%〔昨年度79%〕)(得点率:70%台3社・80%台10社)
  - (d)「社外取締役の関与について、実効性も含め、十分な開示と説明がなされていますか」(平均得点率71%〔昨年度64%〕)(得点率:50%台1社・60%台5社・70%台3社・80%台4社)
  - (e)「環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率82%)(得点率:70%台5社・80%台4社・90%台4社)
  - (f)「社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」(平均得点率80%)(得点率:70%台6社・80%台7社)
  - (g)「ESG関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか」(平均得点率63%〔昨年度59%〕)(得点率:30%台3社・40%台3社・60%台1社・70%台2社・80%台1社・90%台3社)
  - (h)「人的資本に関する情報開示は十分に なされていますか」(平均得点率76%)(得点率:60%台1社・70%台5社・80%台7社)

## (2) 上位3企業の評価概要

### 第1位 三菱UFJフィナンシャル・グループ(ディスクロージャー優良企業(2回連続9回目))

総合評価点84.9点〔昨年度比-1.7点〕

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等(得点率<以下省略>86%)、ESG関連(86%)、自主的情報開示(85%)が第1位、説明会等が第4位(83%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第6位(86%)となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」および「IR部門の機能・姿勢」が共に最も高い評価となり、「IRの基本スタンス」も同得点第1位となった。これらに関連して、決算説明会や統合報告書において経営トップのメッセージは明快で、定量的な情報も充実しており、経営方針が十分に理解できるとの声や、経営トップによる継続的なIR活動への関与を評価する声が寄せられた。なお、中長期的な成長戦略についてさらに説明を望む声や、東証ベースROE目標の設定が望ましいとの声があった。IR部門については、必要な情報が集積されていることや、投資家への適切な対応を評価する声があった。
- ③ 説明会等においては、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)」が最も高い評価となった。「事業または財務上のリスク情報の開示が十分に なされていること」も同得点第1位となった。また、「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」および「自己資本規制をはじめとする金

融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」もトップと僅差であった。これらに関連して、説明会での経営陣の説明が明快でわかりやすいとの声や、米州 MUFG ホールディングスコーポレーション関連の損益変動の説明を評価する声が寄せられた。「事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つた状態で十分に開示・説明されていること」は第 11 位にとどまった。なお、セグメント別の四半期業績について開示の充実を望む声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第 1 位となり、「リモートツールによる情報提供」もトップと僅差の同得点第 2 位となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 10 位）は平均得点率に達しなかった。これらに関連して、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信、スクリプト付資料の開示、質疑応答集などが充実しているとの声が寄せられた。なお、コーポレートアクションについて報道の先行が見られるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、全 8 項目のうち 7 項目において、第 1 位または同得点第 1 位となった。特に、「環境・社会に関する情報開示」の 3 項目は、いずれも 85%以上の得点率となった。これらに関連して、MUFG トランジション白書の発行など ESG の取組みに関する情報開示がさらに積極的になったとの声や、ESG 説明会は定例のもの以外にも随時実施していることを評価する声が寄せられた。また、説明会資料、統合報告書ともに人的資源に関する取組みの記載が充実しているとの声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が最も高い評価となった。また、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」（第 2 位）もトップと僅差であった。充実していたイベントとして、Investors Day を挙げる声が多く、各事業部トップによる説明が充実していたとの声があった。そのほか、気候変動セミナー、社外取締役とのスモールミーティングなどを挙げる声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第 2 位 三井住友フィナンシャルグループ**（総合評価点 83.4 点〔昨年度比+0.7 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（82%）、ESG 関連（85%）が第 2 位、自主的情報開示が第 3 位（82%）、説明会等が第 5 位（83%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第 6 位（86%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 2 位、「IR の基本スタンス」が同得点第 4 位となった。これらに関連して、経営トップの経営方針に関するメッセージが明快であるとの声や、社会的価値創造を経営に取り込む姿勢を積極的に説明している点を評価する声が寄せられた。なお、「IR 部門の機能・姿勢」は昨年度に比べ得点率が下がり、同得点第 5 位となった。これに関連して、IR 部門への情報集積は充分で、有意義な議論ができると評価する声がある一方、投資家への、より積極的な開示を望む声もあった。
- ③ **説明会等**においては、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」および「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が、いずれも同得点第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会の資料はよくまとまっており、わかりやすいとの声が寄せられた。なお、「第 1 四半期、第 3 四半期の開示内容が充実していること」は平均得点率に達しなかった。これに関連して、第 1 四半期、第 3 四半期の開示対応が簡潔すぎるとの声や、電話会議などの説明会を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「英文による情報提供」が同得点第 1 位となり、「リモートツールによる情報提供」もトップと僅差の同得点第 2 位となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 10 位）は平均得点率に達しなかった。これらに関連して、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信、スクリプト付資料の開示、質疑応答集などが充実しているとの声が寄せられた。なお、コーポレートアクションについて報道の先行が見られるとの声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境・社会に関する情報開示」の 3 項目が、いずれも同得点第 1 位となった。また、他の項目の得点率についてもトップと僅差であった。これらに関連して、各種説明資料において、目標やその進捗の開示が充実しているとの声があった。また、ESG 説明会の定期的な開催や、TNFD レポートの迅速な発

行を評価する声も寄せられた。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が、トップと僅差の第2位となった。また、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」も第3位となった。充実していたイベントとして、IR Day を挙げる声が多く、各事業部トップによる説明が充実していたとの声があった。

### **第3位 三井住友トラスト・ホールディングス（総合評価点 82.9 点〔昨年度比+2.7 点〕、昨年度第3位）**

- ① 同社は、説明会等が第1位（85%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（89%）、ESG 関連が同得点第3位（84%）、自主的情報開示が第4位（80%）、経営陣の IR 姿勢等が第5位（79%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」（同得点第4位）および「IR の基本スタンス」（同得点第4位）が、昨年度に比べ得点率を改善した。これに関連して、経営トップによる経営方針の説明について、中期的なメッセージが明快であるとの声や、信託銀行の強みがよく理解できる内容で有益であるとの声が寄せられた。なお、当社の特徴や独自性についてさらに情報発信することを期待する声もあった。
- ③ 説明会等においては、「事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていること」、「自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていること」および「決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が、いずれも同得点第1位となった。また、そのほかの項目も80%以上の得点率となり、その結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、経営トップ自らが詳細に説明し、質問に対する回答も明確であるとの声や、子会社の状況がよく理解できるとの声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「リモートツールによる情報提供」（第1位）および「英文による情報提供」（同得点第1位）が共に90%以上の得点率となった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も85%以上の得点率となり、その結果、この分野において同得点第1位となった。これらに関連して、ウェブサイトでの決算説明会の動画・音声配信、スクリプト付資料の開示、質疑応答集などが充実しているとの声が寄せられた。なお、コーポレートアクションについて報道の先行が見られるとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「環境・社会に関する情報開示」の3項目が、いずれも85%以上の得点率となった。また、他の項目の得点率も80%以上であった。これらに関連して、環境関連ビジネスなどの多岐にわたる内容について、説明や資料が充実しているとの声があった。また、ESG 説明会の定期的な開催や、TBF チームなどの独自の取組みの説明を評価する声も寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示していること」および「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が共に、昨年度に比べ得点率を改善した。充実していたイベントとして、IR Day を挙げる声が多かった。具体的には、不動産事業、投資家ビジネス説明会を挙げる声もあった。

### (3) 上記以外の企業についての特記事項

- **コンコルディア・フィナンシャルグループ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 80.4 点〔昨年度比+8.4 点、一昨年度比+11.1 点〕、第5位〔昨年度第8位、一昨年度第12位〕）**

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（82%）、説明会等（84%）が第3位、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（87%）、ESG 関連が第5位（79%）、自主的情報開示が第8位（71%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて得点率が改善した結果、総合順位は第5位となった（昨年度比3ランクアップ、一昨年度比7ランクアップ）。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR の基本スタンス」が同得点第1位となり、そのほかの2項目も共に80%以上の得点率となった結果、この分野において第3位（昨年度同得点第9位）となった。これらに関連して、経営トップによる IR 活動は格段に向上し、経営方針に関するメッセージも明確であるとの声が寄せられた。

- ③ **説明会等**においては、「説明会資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が第1位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示（連・単の両決算）」の4項目がいずれも80%以上の得点率となり、その結果、この分野において第3位（昨年度第8位）となった。これらに関連して、経営トップ、CFO、社外取締役、各事業担当役員などの幅広い経営陣と投資家との対話の機会を設けていることを評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位となり、「リモートツールによる情報提供」（同得点第2位）および「英文による情報提供」（同得点第8位）も共に80%以上の得点率となった。その結果、この分野において同得点第3位となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」（同得点第1位）および「社外取締役の関与について、実効性も含め、十分な開示と説明がされていること」（同得点第2位）が昨年度に比べ得点率を大きく改善した。また、「人的資本に関する情報開示」も同得点第2位となった。これらに関連して、社外取締役とのミーティング、人材戦略、環境などのESG関連のイベントを定期的で開催していることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、2項目共に、昨年度に比べ得点率を改善した。これらに関連して、充実していたイベントとして、IR Dayでの各種の説明を挙げる声が多く寄せられ、人材に関する取組みが競争力向上と企業価値向上につながる点がよく理解できたとの声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

# 2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (銀行)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目3 (配点20点)	順位	評価項目6 (配点30点)	順位	評価項目3 (配点7点)	順位	評価項目8 (配点30点)	順位	評価項目2 (配点13点)	順位	
1	8306 三菱UFJフィナンシャル・グループ	84.9	17.1	1	25.0	4	6.0	6	25.8	1	11.0	1	1
2	8316 三井住友フィナンシャルグループ	83.4	16.4	2	24.9	5	6.0	6	25.4	2	10.7	3	2
3	8309 三井住友トラスト・ホールディングス	82.9	15.8	5	25.4	1	6.2	1	25.1	3	10.4	4	3
4	8411 みずほフィナンシャルグループ	82.8	16.2	4	24.5	7	6.1	3	25.1	3	10.9	2	4
5	7186 コンコルディア・フィナンシャルグループ	80.4	16.3	3	25.1	3	6.1	3	23.7	5	9.2	8	8
6	8331 千葉銀行	78.0	15.5	6	24.4	8	5.5	13	23.0	7	9.6	6	5
7	8308 りそなホールディングス	77.8	15.3	7	24.0	10	5.7	10	23.3	6	9.5	7	6
8	5831 しずおかフィナンシャルグループ	77.3	15.1	9	25.2	2	5.9	8	22.0	8	9.1	9	10
9	8304 あおぞら銀行	74.9	14.9	10	24.6	6	6.2	1	21.4	9	7.8	11	12
10	8410 セブン銀行	73.9	14.9	10	24.4	8	6.1	3	20.5	10	8.0	10	7
11	7182 ゆうちょ銀行	73.7	15.3	7	22.4	13	5.9	8	20.3	11	9.8	5	9
12	7167 めぶきフィナンシャルグループ	70.9	14.1	12	23.3	12	5.7	10	20.2	12	7.6	13	11
13	8354 ふくおかフィナンシャルグループ	70.8	14.0	13	23.5	11	5.6	12	20.0	13	7.7	12	12
	評価対象企業平均点	77.82	15.45		24.36		5.93		22.75		9.33		

# 2023年度評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（20点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（30点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示(連・単の両決算)	
①事業セグメント別・項目別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つたあたりで十分に開示・説明されていますか。	7
②事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	7
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
④自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（規制変更の影響など自主的開示を含む）が十分になされていますか。	4
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	4
②第1四半期、第3四半期の開示内容は充実していますか。	3
3. フェア・ディスクロージャー（7点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	2
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。	3
(3)英文による情報提供	
・英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	5
(3)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
②社外取締役の関与について、実効性も含め、十分な開示と説明がなされていますか。	4
(4)環境・社会に関する情報開示	
①環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	3
②社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	3
③ESG関連の説明会を開催していますか。また、それは充実していますか。	3
(5)人的資本に関する情報開示	
・人的資本に関する情報開示は十分になされていますか。	3
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）	配点
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、積極的に実施していますか。また、その際の実説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	6
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	7

## 銀行専門部会委員

部会長	高宮 健	野村証券
部会長代理	鮫島 豊喜	SBI証券
	長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG証券
	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
	松野 真央樹	みずほ証券
	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

## 評価実施アナリスト（20名）

幾代 孝四郎	大和アセットマネジメント	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
佐藤 雅彦	SMBC日興証券	橋本 浩	富国生命投資顧問
佐野 滉介	第一生命保険	花岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
鮫島 豊喜	SBI証券	柘 宏二	QUICK
高宮 健	野村証券	藤原 重良	SOMPOアセットマネジメント
田村 晋一	岡三証券	松野 真央樹	みずほ証券
勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント	峯嶋 利隆	ニッセイアセットマネジメント
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント	矢野 貴裕	JPモルガン証券
長坂 美亜	モルガン・スタンレー MUFG証券	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。